

和歌山での「一人暮らし」

海外に留学する経験は、誰にとっても人生で忘れられないものです。海外で、勉強や生活など、いろいろな体験をして、一生の思い出が作られます。

ご縁があって、私は和歌山大学へ留学し、和歌山の人たちと知り合い、和歌山弁を学んで、知らず知らずのうちに、半年の時間が流れました。この僅か半年の一人暮らしの中で、既にたくさん思い出を作りました。和歌山大学の皆様、WIN コンコード、ボランティア先生、バイト先の店長さん、それから、和歌祭り、ぶんだら、キャンプ……



I LOVE 和歌

和歌山大学の先生のおかげで、私はこの一年間、ボランティア授業を受けることになり、二人のボランティア先生と友達になりました。授業では、教科書と新聞を読んだり、クイズをします。家では食事を食べさせてもらったりして、自分はどれほど幸せだろうかと思っています。先生は「せつかく日本に来たのだから、日本の文化をよりよく理解できれば」と思って、お盆の時は実家に、祭の時は祭に連れて行ってくれて、私にとっては大変勉強になりました。文化というものは、見たり聞いたりするだけではすぐに忘れてしまいます。しかし、このような体験をしたら、心の中にいつまでも残ります。

また、私は先輩の紹介で、アルバイトをしています。初めてバイトをした私にとって、最初の頃は本当に辛い日々でした。何も分からないし、何もできないし、間違いばかりしていました。仕事の厳しさを感じて、涙がこぼれるほど苦しんでいました。しかし、仕事の辛さこそ、店長の厳しさこそが、私を成長させてくれました。「挫けそうになりかけても、頑張れる気がするよ」。三ヶ月のバイトで、日本のサービスが分かってきました。店長さんとも仲良くなりました。

過ぎ去った半年を振り返ると、一人暮らしの中で、挫けしたり、悩んだりした辛い時もあつたし、褒めてもらったり、気遣ってもらったりした幸せな時もありました。たった一人で始まった和歌山での生活ですが、いろいろな体験をし、多くの人と出会った和歌山は私の宝物がたくさん詰まった所となるでしょう！



和歌祭りに参加した留学生さん



ぶんだらの楽しい時